令和４年度　学校評価及び自己評価に関する報告

５段階評価により回答を得ました。
　Ａ：「そう思う」、Ｂ：「だいたいそう思う」、Ｃ：「どちらともいえない」、
　Ｄ：「あまりそう思わない」、Ｅ：「そう思わない」
※パーセンテージは、四捨五入の関係でトータル１００%にならない項目もあります。
　また、該当項目の回答数により同じ人数でもパーセンテージが違うことがあります。
※○の数字は人数です。

学校教育についてのアンケート（保護者）

＜家庭数：３０　有効数：２７　（理療科生徒を含む）＞
＜寄宿舎についての項目（３－２）に回答をした数：１１＞

１　一人ひとりのニーズに応じた支援・指導について

（１）個別の指導計画が立案され、個のニーズに応じた教育活動が行われている。
（２）一人ひとりの幼児児童生徒の実態に応じた、分かりやすい授業の工夫がなされている。
（３）幼児児童生徒の能力や努力が適切・公平に評価されている。
（４）将来の進路や職業について、適切な指導が行われている。
（５）自立と豊かな人間関係づくりを目指した生活指導・生徒指導が行われている。
（６）いじめや体罰を排除し、幼児児童生徒の人権・健康・安全に配慮した指導が行われている。
（７）感染症対策のために、適切な対応が行われている。

	A	B	C	D	E	無
（１）	⑱　６６%	⑧　３０%	①　４%	⓪　０%	⓪　０%	⓪　０%
（２）	⑬　４８%	⑩　３７%	②　７%	①　４%	⓪　０%	①　４%
（３）	⑯　５９%	⑦　２６%	③　１１%	⓪　０%	⓪　０%	①　４%
（４）	⑮　５２%	⑦　２６%	②　７%	①　４%	②　７%	⓪　０%
（５）	⑯　５９%	⑧　３０%	②　７%	⓪　０%	①　４%	⓪　０%
（６）	⑯　５９%	⑦　２６%	②　７%	⓪　０%	①　４%	①　４%
（７）	⑮　５６%	⑧　３０%	②　７%	①　４%	①　４%	⓪　０%

＜考察＞

・進路指導については、適切な指導が行われているとは思わないという意見が複数あるため、ニーズを聞き取り、丁寧な情報提供や指導を行っていく必要がある。

２　連携を大事にした支援・指導について

（１）幼児児童生徒や保護者の願いを受け止め、支援にあたっている。
（２）副学籍や居住地校、提携校との交流及び共同学習が十分に行われている。
（３）個別の教育支援計画を生かしながら、外部機関（学校・病院・福祉機関・行政機関等）との連携を行っている。

	A	B	C	D	E	無
（１）	⑯　５９％	⑦　２６％	②　７％	①　４％	⓪　０％	①　４％
（２）	⑪　４１％	⑩　３７％	③　１１％	⓪　０％	①　４％	②　７％
（３）	⑬　４８％	⑨　３３％	④　１５％	⓪　０％	⓪　０％	①　４％

＜考察＞

・幼児児童生徒、保護者の願いを受け止める努力がより一層求められている。長引くコロナ禍において交流及び共同学習を進めるための工夫も必要となってきている。

３　教育環境について

（１）施設・設備の整備を十分に行っている。
（２）寄宿舎生活は充実している。（該当者のみ：回答１１）
（３）本校幼児児童生徒と朝陽教室生徒との交流は進んでいる。

	A	B	C	D	E	無
（１）	⑧　３０％	⑩　３７％	⑥　２２％	①　４％	①　４％	①　４％
（２）	⑧　７３％	③　２７％	⓪　０％	⓪　０％	⓪　０％	⓪　０％
（３）	⑩　３７％	⑨　３３％	⑥　２２％	⓪　０％	⓪　０％	②　７％

＜考察＞

・施設・設備の整備が望まれており、危険を解消するための整備を望む声があげられている。清掃美化に関しても、引き続き意識を向けていく必要がある。

・寄宿舎生活については、コロナ禍でも感染症対策を講じてできるかぎりの対応を行ってきたことが評価されたと考えられる。

学校自己評価（職員）アンケート

＜提出：４３　有効数：４３＞

１　人権の尊重、安心・安全な学校

（１）学校では、体罰や人権侵害等の言動がなく、幼児・児童・生徒一人一人の人権を尊重し指導・支援が行われている。（人権感覚を磨くための教職員研修会、体罰等の撲滅）

（２）学校は、幼児児童生徒一人一人の健康に配慮し、安心安全な学習環境づくりに取り組んでいる。（様々な災害を想定した避難訓練、安心安全な学習環境づくり、感染症予防等)

	A	B	C	D	E	無
（１）	⑳　４７％	⑲　４４％	③　７％	①　２％	⓪　０％	⓪　０％
（２）	㉓　５４％	⑲　４４％	①　２％	⓪　０％	⓪　０％	⓪　０％

＜考察＞

・継続的な研修会、職員間での話し合いが、評価につながったのではないか。しかし、Ｃ・Ｄの評価もあるのでさらに人権に関する意識を高くもつように努める必要がある。

・毎日の健康チェックや校内の消毒等の感染症対策の丁寧な実施、階段のカーペットの張替等、視覚障がいに配慮した設備改修が大々的に実施されたことが評価につながったと思われる。今後も幼児児童生徒の怪我の防止や災害、集団感染等への備えを万全にしていきたい。

２　チームで指導・支援する学校

（３）学校では、一人一人が専門性を発揮し、連携しながらチームで指導・支援する学校作りにむけての取り組みが行われている。（個別の指導計画・教育支援計画の作成や支援会議の実施等において保護者や関係機関と連携する、職員間の情報の共有・共通理解・合意形成などによる同僚性の発揮等）

	A	B	C	D	E	無
（３）	⑬　３１％	㉕　６０％	③　７％	①　２％	⓪　０％	⓪　０％

＜考察＞

・個別の指導計画の統一版が定着し、学級やグループ間での情報共有が十分なされたと評価されている一方、職員間の連携に不十分さを感じるという意見もあることから、引き続きチームで対応するよう心掛ける必要性がある。

３　視覚障がい者のための学校

（４）学校は、視覚障がい教育を担い、視覚障がい児者のための学校作りにむけて取り組んでいる。
（視覚障がい教育の専門性向上、視覚障がい教育や視覚障がい児者理解のための研修、視覚障がい教育に関わる積極的な情報提供　等）

（５）学校、視覚障がい教育の専門性やセンターとしての機能を発揮しながら、視覚障がい教育や視覚障がい者の理解促進を図っていますか。

	A	B	C	D	E	無
（４）	⑯　３７％	㉖　６０％	③　２％	⓪　０％	⓪　０％	⓪　０％
（５）	⑰　４０％	㉒　５１％	④　９％	⓪　０％	⓪　０％	⓪　０％

＜考察＞

・校内研修会やオンライン研修会等への積極的な参加や、日常的にベテラン教員が視覚障がい教育に関する情報を提供していることによって個々の専門性が増したと考える。重複化に伴い他の障がい種への理解も進めたい意見も上がっている。引き続き個々の幼児児童生徒の実態に応じて専門性を磨いていく必要がある。

・教育相談担当者の職員が関係機関（病院、行政機関、進路先等）と連携を図りつつ、自立活動や通級担当職員と共に地域に出ていき、センター的機能を果たしていること評価につながったと考える。

４　教育環境の整備

（６）あなたは、本校幼児児童生徒と朝陽教室生徒や交流指定校、居住地校(副学籍校)との交流を深めるための取り組みができましたか。

	A	B	C	D	E	無
（６）	⑯　２３％	㉛　７２％	①　２％	⓪　０％	①　２％	⓪　０％

＜考察＞

・With コロナへと舵を切っていく中で、交流校と双方の感染状況を確認しながら交流を実施することが増えたが、コロナ感染症流行前に比べると、まだまだその実施数は少ない。引き続き交流の機会を見極めながら実施し貴重な学びの機会を確保していきたい。